

同医学部附属病院から五名、同生命資源研究・支援センター一名の計十一名であり、その中から次の四名が授与候補者として選考されました。その後、理事長に推薦し、理事会において承認された後、それぞれに十五万円が贈呈されました。

なお、併せて「肥後医育振興会学術奨励賞」という賞を付与し表彰されました。

**前城 学** (二十九才)  
熊本大学院医学教育部 博士課程三年 臨床病態解析学分野  
「休眠骨髄腫種細胞の解析から迫る転移・再発機構の解明」

**藤本 健二** (三十四才)  
熊本大学院医学教育部 博士課程四年 脳神経外科学分野  
「中枢神経原発性リンパ腫に対する大量メソトレキセート療法においてポリグルタミル化誘導がもたらす効果」

**河野 和** (三十六才)  
熊本大学院医学部附属病院 特任助教 専門医療実践学寄附講座 (血液内科)  
「形質細胞特異的な代謝経路を標的とした多発性骨髄腫の治療開発研究」

**藤末昂一郎** (三十五才)  
熊本大学院医学部附属病院 助教 医療の質・安全管理部 (循環器内科)  
「肺動脈性肺高血圧症の重症病態把握と治療効果判定における末梢微小血管内皮機能検査 (reactive hyperemia peripheral artery tonometry: RH-PAT) の有用性の検討」

**孫 宇奇**  
熊本大学院医学教育部 修士課程二年 (ミャンマー) (エイズ学Ⅱ分野)

**平成三十一年度(第二十二回) 肥後医育振興会外国人留学生 奨学助成を行う**

医学・医療国際交流支援事業の一つとして、平成三十一年度(第二十二回) 肥後医育振興会外国人留学生奨学金授与候補者の選考も、医学研究助成金授与候補者の選考に併せて行われました。本年度は、熊本大学院医学教育部から四名の応募があり、次の四名が授与候補者として選考されました。

その後、理事長に推薦し、理事会において承認された後、それぞれに十五万円が贈呈されました。

なお、併せて「肥後医育振興会優秀留学生表彰」という賞を付与し表彰されました。

**鄧 欽元**  
熊本大学院医学教育部 研究生 (中国)

**范 昊秋**  
熊本大学院医学教育部 修士課程二年 (中国) (分子遺伝学分野)

**KAUNG HTE LIN**  
熊本大学院医学教育部 修士課程二年 (ミャンマー)

**孫 宇奇**  
熊本大学院医学教育部 修士課程二年 (ミャンマー) (エイズ学Ⅱ分野)

熊本大学院医学教育部 博士課程二年 (中国) (国際先端医学Ⅱ分野)

**平成三十一年度医学研究助成金・外国人留学生奨学金の授与式を開催**

平成三十一年度肥後医育振興会医学研究助成金及び肥後医育振興会外国人留学生奨学金の合同授与式が、平成三十年十一月八日に医学教育図書棟四階ゼミ室において行われ、西理事長から医学研究助成金四名、外国人留学生奨学金四名に対して、各十五万円が受賞者ひとりひとりに手渡されました。また、それぞれの受賞者の代表者から謝辞及び今後の決意が述べられました。



**第十六回国際アミロイドーシスシンポジウム開催報告**

事務局 熊本大学脳神経内科 山下 太郎、植田 光晴

熊本大学脳神経内科教授(医学部長、国際アミロイドーシス学会理事長)の安東由喜雄先生を大会長として、第十六回国際アミロイドーシスシンポジウム(TSA2018 Kumamoto)が、平成三十年三月二十五〜二十九日に、KKRホテル熊本で開催されました。世界三十九各国から約七百名の研究者が参加し、最新のアミロイドーシスの病態研究や、診断法、治療法などに関して、四七三演題が発表されました。

国際アミロイドーシスシンポジウムは、第一回目が一九六七年にオランダで開催されて以来、世界のアミロイドーシス研究の専門家が集まり研究成果を発表し議論する場として、五十年以上続いており、その成果は、臨床・基礎医学の様々な分野で高い評価を得ております。これまで欧米を中心に開催されてきたが、日本での開催は二回目となり、今回の参加者数演題数は、これまでで最大の規模となりました。ISAの理事長は、これまで欧米人で担当されてきましたが、安東由喜雄教授の就任は、欧米人以外で初となりました。熊本では二〇一一年に安東由喜雄教授を大会長として、国際家族性アミロイドポリニューロパチー(FAP)シ

べられました。